

「AI が 10 年後を語る」

第 68 回東京都 24 地区対抗柔道大会、第 7 回東京都 6 地区対抗女子柔道大会が講道館新館 7 階大道場で開催された。

東京都 24 地区対抗柔道大会は第 1 部と第 2 部に分かれている。

第 1 部 A ブロック 1 位の世田谷区と B ブロック 1 位の北区が決勝に進み、2 対 0 で世田谷区が優勝した。次鋒、中堅、副将と引き分けが続く熱戦だった。第 2 部の決勝戦には荒川区と文京区が進み、2 対 1 で荒川区が優勝した。

東京都 6 地区対抗女子柔道大会は、A ブロックと B ブロックに分かれてリーグ戦を行った。A ブロック 1 位の城北と、B ブロック 1 位の中央での優勝決定戦の結果、3 対 0 で城北が優勝した。城北の強さが際立っていた。

ところで、男子のチーム編成は昨年と比べて一部変更されている。変更点は、出場選手の段位についてである。「社会人及び大学生・各種学校生・高専 4・5 年生は 4 段以下、高校生は 2 段又は初段とする。」とした。

変更理由は、高校生以外を 4 段以下と単純化することにより、各地区で選手を集めやすくすることである。そこで、今回出場の 115 名の選手の段位を見てみたところ、4 段の選手は 5 名だけだった。来年以降は、3 段以下にしても良いのではないだろうか。

女子のチーム編成は、「先鋒は 18 歳以上、中堅は 25 歳以上、大將は 25 歳以上」になっている。年齢制限のみ決められている。少しでもケガをしないような配慮をするのであれば、「体重の軽い選手から重い選手への体重順に配列すること」とした方が良いのではないだろうかと思う。以上、検討の余地があるのではないかな。

この 2 つの大会は、東京都柔道連盟の 1 年最後の締めくくりの大会であり、各地区の代表チームの団体戦として、さらに盛り上がって欲しいものである。

そこで、10 年後の 24 地区（男子）、6 地区（女子）大会についての希望的予測を AI にしてもらった。（以下、フィクションです。）

AI は語る。

「2034 年の締めくくりとして、第 78 回東京都 24 地区対抗柔道大会、第 17 回東京都 6 地区対抗女子柔道大会が東京武道館で開催された。観覧席は、各地区の応援団で満員である。応援団の中心には区長・市長が座っている。地元チームの応援には熱が入り、大いに盛り上がった。午後 5 時に閉会すると、区長・市長と応援団は、地元チームの選手たちとともに帰って行った。地元で祝勝会や反省会が行われることだろう。柔道が地域の活性化に貢献してきた証である。10 年前には講道館で行われていた大会が、これまでに発展してきた陰には、多くの方々のご努力があったからである。感謝するとともに、さらなる発展に努めていきたい。」（広報担当：AI）

10 年後、AI が語るように、地域密着型柔道普及が実現できることを願いたい。

（広報副委員長：大坪宏至）